

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000072		
法人名	医療法人 新清会		
事業所名	グループホーム千花		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字芦北2592-1		
自己評価作成日	平成26年11月26日	評価結果市町村受理日	平成27年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成27年1月19日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GH千花は、H25年4月1日開設致しました。ホームの周辺には公共機関や商業施設が徒歩で行ける範囲にあり大変便利な場所にあります。室内は完全バリアフリーで日当たりも良く、外には小さな畑があり利用者様と一緒に野菜を育て収穫し美味しく頂いています。秋には夕焼けが大変綺麗に見えます。又8月の町内花火大会はホームより見学することができます。食事も毎日職員が手作りし季節の新鮮な食材を提供しています。職員は20代～60代でそれぞれの意見を出し合い日々支援させて頂いています。千花の理念の基、思いにき気付き、寄り添い笑顔の花を咲かせ、穏やかな日々を送って頂けるよう取り組んでいます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域のニーズである入所待機者が多いという地域からの期待と法人として精力的な地域福祉への取り組みにより、同法人のグループホーム3ヶ所目として平成25年に開設されたホームである。グループホームの経験豊かな管理者を中心に、まずは系列のグループホームで研修を積んだ職員とがホーム独自の理念から一つひとつ作り上げる等思いも深く、“笑顔の花を咲かせましょう”と職員の意見を活かしながら初期基盤づくりにまい進している。ホーム便りによる地域への啓発や運営推進会議を運営に反映させ、地域に密着しながら、暮らしの場“家”として職員の寄り添いながらの深いかかわりが、明るいホームとして形成されている。母体の人的・物的な連携は医療面ばかりでなく、四季を楽しむ様々な外出支援に活かされている。入居者と職員との労いのある和気あいあいとした日常を垣間見るホームである。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	タイムカードの横に貼り理念を出勤退社時声に出して読んでいる。又千花での理念も作り全職員で共有し実践に繋げるよう努めている。	法人の理念である“尊厳・個性・主体性”を基本として、ホーム名千花に合わせた独自の理念“利用者の思いに気づき寄り添いましょう、笑顔の花を咲かせましょう”を掲げている。職員は日々理念を目にすることで意識付けとし、毎月のカンファレンス等振り返りの機会を作り、笑顔のある日常を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者職員は近隣の方への挨拶には常時心掛けています。ほぼ毎日近所を散歩したり、近くのお店へ買い物に出掛けている。避難訓練など手伝いを呼びかけています。6月の1日一汗運動にも参加するようにしている。	商業施設が多い立地の中であるが、開設に当たり挨拶回りからスタートし、買い物や天気の良い日には良く散歩に出かけている。近隣住民との歓談や農作業中の方々から声をかけられる等地域への“千花便り”の回覧が啓発の一環として生かされている。地区の自主防災組織の一員としての関わりや一汗運動への参加、近隣住民も避難訓練に参加される等地域との良好な関係を築いている。	ボランティアとの交流は入居者の大きな楽しみになり、住民との接する機会には心身の活性化にも繋がっていることが千花便りの中で確認された。今後も地域行事への参加やボランティアとの交流等の継続した支援により、更に地域住民の訪問が多くなることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催の行事に参加し地域の方々と交流を深めている。町主催の七夕祭りには七夕飾りを出品し見学にでかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様の近況報告や他委員からの質問意見要望をきき、サービス向上に繋げています。地域の行事なども事前に誘って頂き参加する様にしている。	2ヵ月毎に開催する運営推進会議は、行政・区長・民生委員・消防署長・家族代表等多様な関係者のもと開催している。ホームの取組みや活動・研修報告が行われ、地域に密着した事業所として展開できるよう活発な意見交換が行われている。消防署長の意見は防災の強化として生かされ、区長からの地域行事、行政からは介護保険の改革に向けた情報等サービスに反映させている。参加委員からも行政に対して提案できる有意義な会議である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町主催の研修会等には必ず出席するようにし、サービス向上に活かしている。役場介護保険課主催の意見交換では実情や他グループホームの取り組みなどを聞くことでケアサービスの向上に活かしている。	運営推進会議には毎回参加が得られ、行政主催の研修会・意見交換会参加や介護認定更新時の情報交換、地域包括支援センターへの空き情報発信が紹介に繋がる等各関係機関との協力関係を築いている。役場介護保険課も芦北町のグループホームと意見交換の場を作ったり、運営推進会議時の報告用紙(入居者情報用)を作成される等地域福祉の推進役としての関わりに敬意を表したい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を法人の中で実施し職員全員が正しく理解し実践に取り組んでいる。玄関居室等の施錠についても身体拘束であると認識し、利用者様の状態を把握し見守りを工夫しケアに取り組んでいる。スピーチロックに関しても現在取り組んでいる。	身体拘束廃止に向け法人及びホーム内での研修や、身体拘束廃止委員会による事例検討やマニュアル作成等の話し合い等が行われており、拘束の弊害は全員が正しく認識し、転倒転落防止にスコアカードの活用も拘束に繋がらない為の工夫である。職員は言葉使い等その都度注意喚起し、幹線道路に面したホームであり不穏状況時には玄関を施錠することもあり得ることを家族に説明している。入居者の中には自宅での生活の延長として、自由に鍵を開け外に出かける方もあり、個々の状況把握と見守りや所在確認を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加し職員全員注意し防止に努めている。今後も職員全員が意識を持って取り組んでいきます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については学ぶ機会を設けたと思う。家族よりこのホームに利用されている方がいないか質問されたことはある。現在対象者はいないが今後学ぶ必要はあると思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	約款書の説明利用料金、重度化や看取りについて、医療連携体制、起こりうるリスクなど詳しく説明している。報酬加算料金改定時には文書を発行し個々に詳しく説明している。経済的不安に対しては個別にて対応相談にのっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様との毎日の会話なかで意見要望不満等聴くようにしている。内容を必ず職員間で話し合い運営に反映させている。家族の面会時には必ず意見や要望を聴くようにしている。家族要望ノートにて職員間で共有し運営に反映させている。	職員は入居者に寄り添い、良く会話を交わし要望等を把握している。家族の訪問時に自由に要望等が言える環境を作っている。家族は良く相談事も出されており、時には理事長である主治医へ相談する等収集した案件は要望ノートに記載し、全員で課題を検討しケアサービスに反映させている。クリスマス会兼忘年会を開催し家族同士の交流の機会を作っている。また、ホーム内外の苦情相談窓口を明確にし、契約時に説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士で業務検討会を行い意見を出し合い聴くようにしている。又休憩時などに気付いた点は都度話し合えるようにしている。運営会議の席で理事長事務長、訪看主任を交え意見や提案を出し合い運営に反映させている。	職員は毎月の業務改善会議時に各委員会の報告や環境整備等職員の提案を話し合い、食後等の休憩時間も有効に活用し話し合いを行っている。ホームでは解決できない問題、(例:上層部の判断が不可欠な案件)は理事長・事務長や訪問看護部門からの参加による運営会議の中で検討し、特に入居者の体調や行動等医療・看護・介護面からの話し合いが行われている。理事長や事務長も頻りにホームを訪れ状況把握に努められ、職員同士も意思疎通の良い明るい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤6名パート1名にて個々の事情を踏まえ、継続して働くことが出来ている。福利厚生や職員の資格取得に向けた支援を行い取得後は職場内で活かせる環境作りに努めている。今後退職金制度の確立が望ましい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での勉強会や町主催の研修会、実践者研修等全職員が参加できるよう体制を作っている。研修報告は毎月の月例会時発表している。資格取得に向けてお互い声掛けし頑張っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会熊本県支部総会出席、情報交換に努めている。水俣芦北ブロック会に参加交流に努めている。グループホーム間での交換実習や同法人同志の交流など通じ質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サマリーや情報提供書にて事前に本人の思いや不安を全職員が共有し傾聴するようにしている。要望等にも耳を傾けコミュニケーションをとりながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と世間話など交え、ゆっくりと話を聞くようにしている。特に不安なこと、要望等は時間をかけ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全職員間で話し合い状況確認し、必要としている支援の提案をし他のサービス利用にも繋げていくよう努めている。相談者との十分な話し合いにも努め、代表者にも相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個々の能力に応じ家事や畑仕事等を一緒に行っている。又出来ることはして頂き出来ない事を支援させてもらっている。常に笑顔で接するよう心掛け穏やかに生活して頂ける様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など本人の状態を報告相談している。疎遠になりつつある時は電話などで連絡、相談報告をしている。利用者様や家族との関わりを多く持ち良い関係を築けるよう努めている。本人のお誕生会には家族にも参加の声かけもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方など気軽に面会に来て頂ける雰囲気作りに努めている。馴染みの場所などに度々ドライブに出掛けている。今後故郷訪問など計画している。	家族や兄弟、近所からの訪問や、これまでの美容院の利用やドライブに出かけた時には自宅周辺をまわったり、「生まれ育った場所に行きたい」との希望に応じ外出を支援している。家族による墓参や葬儀列席等家族の協力も得ながら馴染みの関係が途切れないよう支援している。また、七夕・節分の豆まき、十五夜・初詣、三社参りでは知人との再会もあり、慣習等も継続して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士出来ないことをお互い手伝われている場面を職員が見守っている。時々気分の変化にむらがある為、全職員が個々の状態を把握しながら共に楽しく生活できる様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サマリーや情報提供書等にて詳しく伝えるようにしている。その後の経過を見守り、必要に応じ相談や支援に努めることを本人家族に伝えるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が本人に聞いたり日常の会話の中から本人の思いや意向の把握に努めている。その思いを職員間で共有し話し合いケアに活かしている	職員は入居者の共通する地域の話等により思いを引出したり、1対1での会話等により把握し、時には入居者の言葉の裏にある真意も探り、本人本位になる様その都度及びケアカンファレンスの中で検討している。また、本人の思いを家族が代弁されるケース、相談等を受け希望を実現させた事案もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から話しを聞いたり前施設などから介護サマリーや情報提供書等にて経過の把握に努めている。暮らしの情報シートなども利用しているプライバシー保護にも充分努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックにて心身の状態把握に努めている。本人の有する力を職員が気づきチームで把握共有し家事など個々のできる力に応じ手伝って頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に要望を聞きカンファレンスを開催し介護計画をたてている。各担当にアセスメントを記入してもらい意見を反映しプラン作成をしている。現状を把握しながら、必ず見直すようにしている。	入居申し込み時に担当職員によるアセスメントを行い、プランを作成している。毎月の利用料支払に訪問される家族に要望等を聞き取りし、毎月のモニタリングでプランの継続可否を見極めている。定期的には半年毎に見直すこととしているが、心身の状態変化には随時見直している。個々の課題に応じた詳細な援助内容が作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子ケアの実践気づきなど個別に介護記録に記入し、職員間で情報共有しながら気づきや工夫を話し合いケアの実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ柔軟に対応している。母体が医院である為医療との連携にて受診入院、病気の早期発見に努め、支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して暮らして行ける様運営推進会議には区長、民政委員消防署員参加してもらい意見交換している。年2回の避難訓練には消防署Qネット、近隣の方などに参加してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医院がかかりつけ医である。利用者様の状態は常に医師に報告又は訪看に相談している。又、状況に応じて専門医の受診も支援している。	入居者全員が母体医療機関をかかりつけ医としている。医師である理事長や事務長等の参加のもと、ホームの運営会議を開催しており、入居者個々の心身の状況を把握され、適切なアドバイスを受けている。母体医院での定期健診やリハビリ等で通院したり、専門医の受診が必要な際は家族と協力しながら、職員も同行している。健康チェックにより異常の早期発見に努め、体調変化時はかかりつけ医や訪問看護と相談し、入居者の体調維持に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康チェックを行い、異常の早期発見に努めている。週1回の訪看来荘時情報連絡し、連携、相談している。異常に気付いたら母体の医院にすぐに連絡するなど健康管理や医療支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体がかかりつけ医であり、入院時には情報提供しケアについて相談している。病院関係者と利用者様の状態なども情報交換している。入退院時には家族への状態報告や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に必ず家族に意見を尋ねている。状態に変化が生じた場合にはかかりつけ医と意向確認を対応している。又、入院が必要な場合は職員間で話し合い家族や母体のかかりつけ医、訪看などと連携し支援している。	入居時に重度化時のホームの対応を説明し、家族の意向を把握し、主治医や訪看との連携により、“できる限りホームで”との家族の希望に応えている。医療の依存度次第では医療機関や法人施設と連携を図り、本人にとって最良の方法を検討している。法人師長や訪看の指導及び医療面の勉強会に参加し職員のスキルアップに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は研修に参加している。ミーティング時に対応について不明な点など話し合いをしている。緊急時対応マニュアルを作成し見える場所に貼り実践に活かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署近隣の方にも参加してもらい避難訓練している。地域の災害対策連絡会議にも出席し情報交換している。法人での災害対策委員会もあり、協力を得ることができる。	年2回の火災避難訓練を実施し、近隣住民の参加も得られている。各防災機器の点検を行い、消防署の立ち入り検査での指摘事項については早急に改善している。又、毎回運営推進会議に消防署からの出席があり、防災のみならず、地域の緊急搬送の状況報告等は職員への意識強化として生かされている。有事の際の法人との連携体制が確立され、自然災害などについては防災対策委員会で検討している。	地域の自主防災組織の一員として、今後は自然災害への対応や避難等について組織と連携した訓練の実施等が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が利用者様一人々の事を充分理解し言葉かけや対応をしている。居室に入る際は必ずノックをし訪室している。入所時ホーム発行の新聞に掲載してよいか否かあ尋ねている。又業務検討会にて全職員が必ず振り返り注意し合っている。	入居者が希望される呼称での呼びかけや、分かり易く親しみのある方言での話しかけの中にも、年長者への尊厳に配慮した対応に努め、言葉遣い等で気になる時は職員同士で注意喚起し合える環境を作っている。排泄や入浴時はプライバシーに心を配り、個人情報の取り扱いについてはホーム便りへの写真掲載等に特に注意を払いながら対応している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話を通じ思いや希望が話しやすいような環境に努めている。食事中など顔の表情にて好き嫌いを把握している。言葉にて意思表示でられない利用者様の排泄など表情や体の動きをキャッチし支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様1人々のペースに合わせ本人の意向を尋ねながら支援している。散歩も1人々の状態に合わせ職員が個々に対応し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に相談や協力を得ながら、馴染みの理美容院の利用やホーム内にて本人の意向に沿って散髪支援している。近くの店へ利用者様と一緒に出掛けショッピングなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備を手伝ってもらったり1人々の能力に応じ配膳下膳をして頂いている。出来ない利用者様の配膳下膳は出来る方が手伝っている。食事形態も個々の状態に応じ提供している。	入居者の希望を聞きながらその日の献立を立て、職員が交代で調理に携わっている。入居者も下ごしらえや下膳等出来る事に関り、茶碗洗い等にも自発的に取り組まれている。又、お好み焼きやソーメン流し等目先を変えたり、クリスマス会や誕生会等の行事食、外出先での弁当等を楽しんでいる。個々の状況に合わせ形態を変えたり、体調によっては法人栄養士に栄養面を相談している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様1人々の好みや習慣を全職員が把握している。月に1度体重測定をし増減の確認をしている。必要な食事水分が摂取できているか把握し支援している。場合により、医院の栄養士などに相談をしバランスのとれた食事の支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	研修会に参加し口腔ケアの重要性を理解している。利用者様1人々に応じた口腔ケアの支援をしている。夕食度義歯は消毒を毎日支援している。口腔ケアが適切に支援できているかカンファレンスにて全職員で話し合い清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。利用者様の状態に応じ可能な限りトイレでの排泄や排泄の自立の支援を行っている。支援の結果入所後リハビリパンツから布パンツへ移行になられた利用者様もおられる。	排泄チェックを活用しながらトイレに誘導したり、時間毎や様子を察した声かけ等、個々に応じトイレでの排泄を支援している。又、個々の希望(失敗への配慮)も考慮しながら排泄用品を検討し、入居後に布下着への移行が出来る等自立に向けた取り組みが行われている。安全面から夜間はポータブルの使用もあり、日中はカバー等で尊厳や居室環境に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し飲食物に繊維質の多い物を提供したり水分摂取などの工夫をしている。日光浴や毎日の運動散歩などを通じ自然排便を促す工夫をしている。又Drや家族に相談し場合によっては緩下剤などの服用の支援もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の状態や意向に沿って支援している。羞恥心や負担感等を全職員が理解し都度声かけしながら、ゆっくりと入浴ができるよう支援している。	入居者の希望や体調に合わせ、毎日や一日おき等に支援し、職員と会話しながらのゆっくりとした入浴時間を持っている。拒否がある時は無理強いをせず翌日に支援したり、着替え等で対応し汚染時等は随時対応し清潔保持に努めている。又、しょうぶやゆず湯、入浴剤で気分転換を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人々の要望や状況に応じて対応している。日中は活動や日光浴などを促し安眠できるような支援をしている。ストレスの状態等を申し送りにて全職員が把握し1日穏やかに過ごして頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を介護記録に閉じ、全職員が把握出来るようにしている。状態の経過や変化を訪看に相談したりかかりつけ医に報告している1人々の薬箱にて飲み忘れや誤薬の防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般において出来ることは手伝ってもらっている。本人のペースで生活できる様支援している。季節ごとの行事や誕生会など全員参加で行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中医院への電気治療へ出かけ行かない利用者様は散歩や近くの店への買い物などの支援をしている。家族の協力にて墓参りや友人宅自宅に外出されている。月に1度は必ず全員でドライブ(水俣、日奈久方面)に出掛けている。本人の意向により度々外出の支援もおこなっている。	ホーム菜園の手入れや周辺の散歩・近隣商店への買い物等日常的に戸外での生活を支援し、季節毎の花見(桜・アジサイ・コスモス・バラ等)やドライブには車椅子の方も一緒に外出している。又、地域の祭り行列の見物や、「海が見たい」や「家に帰りたい」との希望にドライブや自宅訪問に出かけ、家族の協力での外出や外食が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の同意の元に所持されている方もおられ、買い物などの支援をしている。預り金の説明は入所時に必ず行い本人と家族と相談合意を得て管理している。面会時には預り金ノートにて使徒と残金を確認して頂きサインをもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にていつでも電話を使用出来る様支援している。手紙を書く方もおられ、プライベートに配慮しながら支援し一緒にポストへ投函に出掛ける時もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や植物を飾ったり行事ごとの写真など利用者様と一緒に考え意見を尋ねながら飾りつけをしている。室温も温度計を確認し調節している。居心地良く過ごして頂ける様全職員にて意見を出し合い工夫している。	全面的に改装されたホームは、バリアフリーが行き届き、中央のリビングが入居者の寛ぎの場となっている。観葉植物や入居者写真・家族や職員の作成による季節の飾り等がホーム内を彩り、温湿度管理で快適な共用空間となっている。テレビ・ソファの位置や居室への移動などについて、入居者の状態等を職員間で検討しながら、安全な環境をケアにより実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関と後方の非常口辺りに椅子を準備し1人で外の景色を眺めたりゆっくりできる空間を提供出来る様工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談し馴染みの物を持って来てもらっている。居室には本人と一緒に写真や手作りの物を飾ったりしている。装飾することを拒否される利用者様もおられる為相談しながら行っている	入居時に馴染みの品物の持ち込みを説明し、鏡台や本・家族写真等思い思いの品物が持ち込まれている。居室入口の入居者目線で名札や、ベッドの位置や高さ等も本人に合わせ様々であり、自分の書やぬり絵・家族からの手紙等を掲示している。自分で部屋の整理をされたり職員が手伝ったりと、個々に合わせながら居室環境を整備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力歩行される方が安心して動ける様ソファや椅子を手摺りの代替になる様工夫し設置している居室も一人々の身体機能や状態にあわせ家族と相談し決定している。トイレに座り足が床に着かない方にはスノコの足置きを設置するなど工夫している		